

会員の皆さまへ

日本ニュージーランド協会会長 山崎弘子

日毎に秋も深まり、紅葉の季節を迎えようとしているこの頃ですが、なかなか Covid-19 の勢いが治まる気配の無い中、皆さまどのようにお過ごしでしょうか？

このたび日本ニュージーランド協会では、皆さんと元気な顔を見せ合いながら日ごろのストレスを発散できる楽しい一日を以下のように企画して見ました。

さらに🎄クリスマスパーティ🍷につきましても、『今年こそ！』との思いから、下記のような会場にて計画させていただきました。

皆さまの両イベントへのふるってのご参加をお待ち申し上げております。

【金沢八景散策🚶への誘い】

元禄の時代(1700 年頃)から江戸市民の観光の名所となり、後に歌川広重により 8 枚の浮世絵に描かれた「金沢八景」の地を、500 余年の時を超えた 2022 年の秋に、八景(8 枚)の浮世絵を手にしなが、自らの足で一緒に巡って見ませんか？

日時：2022 年 11 月 23 日(水) 10:00～16:00 頃

- ✓ 23 日(水)が雨天の場合は 26 日(土)に延期して実施します。
- ✓ 雨天中止の場合は 23 日(水)、26 日(土) 共に前日の午前中に連絡します。

集合：10:00 京急金沢八景駅改札口 (品川 9:17 発快特 ⇒ 金沢八景 9:56 着)

- ✓ 解散場所：称名寺 (京急金沢八景駅まで徒歩 15 分)

行程：次ページ以降の「金沢八景を巡る旅の詳細」をご参照下さい。

費用：3,700 円程度 (食事代 2,600 円、電車代 240 円、喫茶代 770 円を含む)

参加申込み：11 月 16 日までに下記 (山崎弘子宛) へご連絡下さい。

- ✓ 23 日(水)、26 日(土)の両日についてのご都合をお聞かせ下さい。
- ✓ 電話：090-8102-8305 メールアドレス：nzs@outlook.jp
- ✓ 当日の緊急連絡(急な欠席、遅刻など)も山崎宛へお願いします。

🎄クリスマスパーティのお知らせ🎄

日時：2022 年 12 月 17 日(土) 17:30 より
(17:00 受付開始)

場所：Newzealand Platform 3 階

渋谷区神山町 42-3 ☎：050-5571-7723

会費：5,000 円程度を想定しておいて下さい。

参加申込み：11 月 26 日までに

下記 (山崎弘子宛) へご連絡下さい。

電話：090-8102-8305

メールアドレス：nzs@outlook.jp



金沢八景を巡る旅の詳細

【集合】 ① 京急 金沢八景駅 改札口 10:00 (品川 9:17 発 ⇒ 金沢八景 9:56 着)

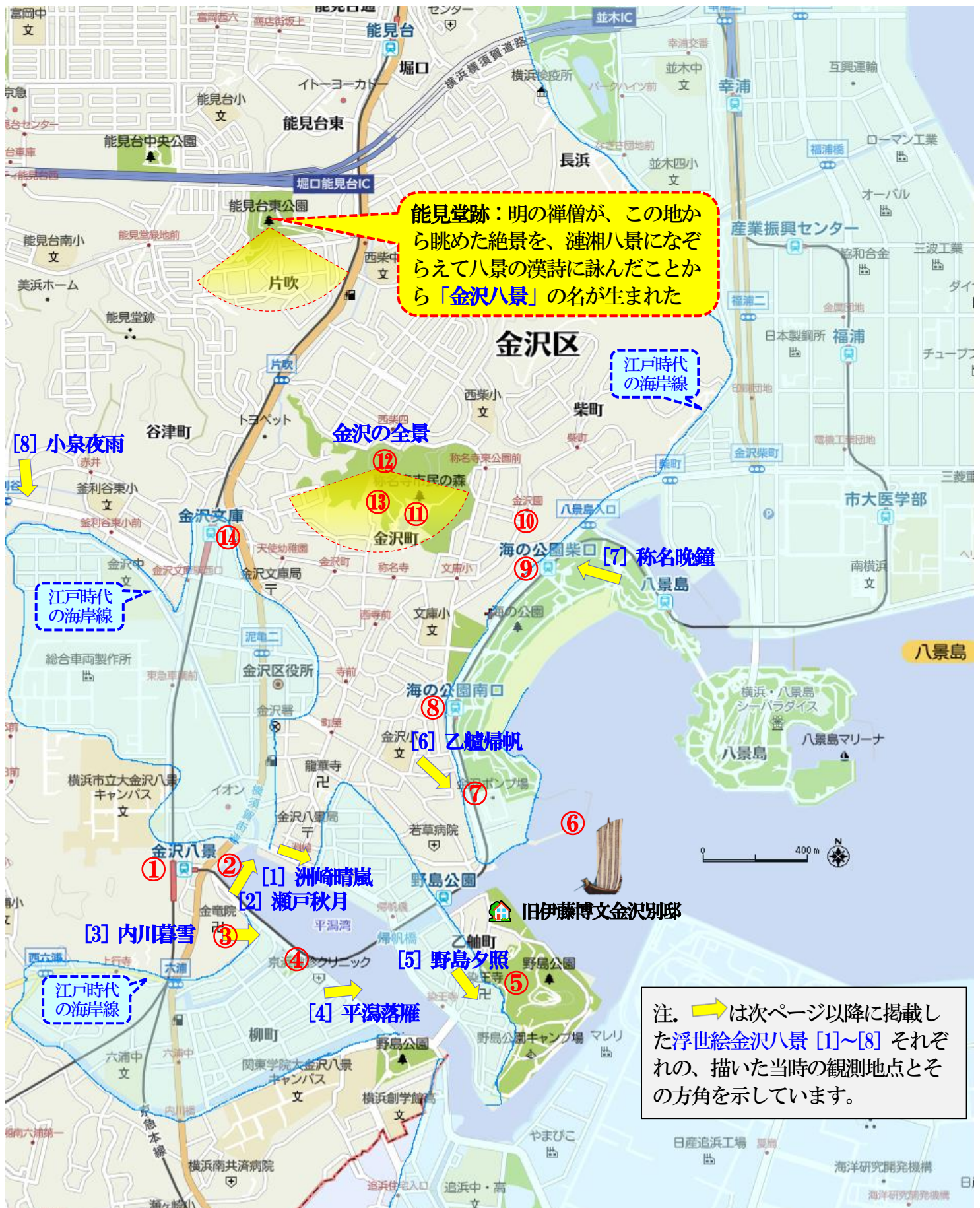
★当日の緊急連絡は 山崎弘子(090-8102-8305) までお願いします

-  (05) ⇒10:05 ② 琵琶島神社：北条正子が平潟湾に浮かぶ円形の島に建てたと言われている神社へは陸続きに渡れます。金沢八景の [1]洲崎晴嵐、[2]瀬戸秋月をイメージしながら 500 年後の平潟湾を一望していただけます。
-  (10) ⇒10:25 ③ 九覧亭跡：江戸後期に平潟湾一带の景色を金龍院境内に設けられた展望台でしたが今はその後に聖徳太子堂が建てられています。金沢八景の [3]内川暮雪を描かれたとされる地ですが、その眺めは一変しているようです。
-  (10) ⇒10:40 ④ 八景公園⇒平潟湾プロムナード⇒⑤夕照橋：平潟湾の金沢八景駅から夕照橋へに至る 1km 程の西南岸に整備されたプロムナードに沿って、金沢八景の [4]平潟落雁に描かれた風景を眺めながらの散歩を楽しみましょう。
-  (30) ⇒11:05 ⑤ 野島公園：平潟湾の入口に浮かぶ「野島」に設けられた公園を一周していただける時間(30 分)を設けますので、歌川広重が描いた [5]野島夕照 のアングルを探し出して見て下さい。海拔 57m の野島山展望台からは房総半島や富士山を臨むことが出来ます。また島の北側には旧伊藤博文金沢別邸があり入館は無料ですので、時間の許す限り覗いて見て下さい。
-  (15) ⇒11:50 ⑥ 野島の海苔「忠彦丸」：明治時代から養殖され始めた野島周辺の海苔漁師が営む加工場&直売所では、コンロで炙って焼きたての香りを味わって食べる「乾海苔」など、地元ならではの独特な海苔が販売されています。
-  (10) ⇒12:10 ⑦ 小柴の穴子「かりんの木」：遠浅で日光が海中まで良く届きエサが豊富な金沢付近の漁場ではブランド品「小柴(現在の柴)の穴子」が水揚げされます。貸切りの小さなお店で、絶品の穴子を思う存分に味わって下さい。
-  (10) ⇒13:00 ⑧ 海の公園南口駅：高架に設けられた横浜シーサイドラインの駅のホームより [6]乙艦帰帆に近いアングルでの平潟湾へ帰港する船の姿を思い浮かべてみましょう。(海辺がどう見えるかについては未確認ですが・・・)
横浜シーサイドライン：僅か 2 分間の乗車時間ですが、午前中に歩いて来た金沢八景の地を、高架線を走る車窓から眺め直して見ましょう。
-  (02) ⇒13:06 ⑨ 海の公園芝口駅：当時は遠浅の海であった八景島付近より描いたと思われる [7]称名晩鐘の風景を高架線のホームから確認して見ましょう。
-  (10) ⇒13:20 ⑩ 金沢園：昭和 5 年に開園し、かつて与謝野晶子や高浜虚子などが訪れた旗亭「金沢園」が古民家カフェとして営業されており、当時の風情を残す建物や庭園をゆったりと眺めながらコーヒーを一杯味わいましょう。
-  (20) ⇒14:10 ⑪ 称名寺：1333 年鎌倉幕府滅亡と共に滅びた北条氏の菩提寺であり、寺に保管されていた北条家の貴重な資料は、1930 年に「金沢文庫」として公開されました。朱塗りの赤門、桜並木、仁王門の先に広がる浄土庭園、鐘楼(称名晩鐘)などを歩き回って鎌倉全盛期を感じて見ましょう。
-  往復(30) ⇐⑫ 称名寺市民の森 六角堂広場：金沢八景由来の地 能見(のうけん)堂からの眺めに匹敵する金沢の絶景を楽しんでいただけます。[8]小泉夜雨は遠方の平潟湾を、すでに埋め立てられた内海(泥亀新田)越しに描いたものですが、かつての内海を想像しながら、元禄時代の金沢八景を偲んで見て下さい。

👤 (05) ⇒15:05 ⑬ 金沢文庫：910 年程前に滅びた北条家の貴重な資料(絵画、彫刻、工芸品、古書など)をチョッとだけ閲覧して見ましょう。(入場料 250 円)
(早めに帰られたい方は、この見学をパスされても結構です。)

👤 (15) ⇒15:50 ⑭ 京急 金沢文庫駅 ⇒解散：16:00 発 快特(青砥行)でお帰り下さい。

または 👤 (15) ⇒15:50 ⑨ 横浜シーサイドライン 海の公園芝口駅 よりお帰り下さい。



黒船来航の年に描かれた金沢八景

水戸藩主徳川光圀が招いた明の禅僧・東皐心越禅師が元禄7年(1694年)に**金沢能見堂**を訪れて、漣湘八景になぞらえて **晴嵐・秋月・暮雪・落雁・夕照・晩鐘・夜雨・帰帆** からなる八景の漢詩を詠んだことから江戸市民の観光の地として**金沢八景**の名が高まり、以後約160年を経た黒船来航の年1853年に歌川広重によりその風景が8枚の浮世絵に描かれた。



[1] 洲崎晴嵐(すさきのせいらん)

洲崎は、洲崎神社を中心にした横浜市金沢区洲崎町の一帯である。題名にある晴嵐とは、晴れた日の霞のことである。製塩が盛んであったので、本図でも海水を煮詰める煎熬小屋が描かれている。海岸線が入り組んでおり、陸地が海に向かって数カ所突き出している為、地名に「崎」が付けられている。



[2] 瀬戸秋月(せとのしゅうげつ)

瀬戸とは、平潟湾の北側、瀬戸神社のある横浜市金沢区瀬戸のことで、現在では海岸線側に横須賀街道があり、陸側には横浜市立大学のキャンパスが広がる地域。中央では、小さな橋を渡る人が描かれているが、この地には瀬戸橋と呼ばれる日本最古の海上橋がある為、それに関連したものではないかと考えられる。



[3] 内川暮雪(うちかわのぼせつ)

内川は、平潟湾の西側にある九覧亭の付近とする説と、その更に200m程度内陸の内川入江付近とする説があるが、どちらにしても平潟湾の西側の陸地からの景色を指していることに変わりはない。本図でも分かるように、内川から平潟湾までの陸地には景観を遮るものが少なく、一面の雪景色が綺麗に見えている。



[4] 平潟落雁(ひらかたのらくがん)

平潟落雁は、中国の瀟湘八景の平砂落雁に対応する。図様は、画題が示すように中空に列をなして飛ぶ雁を配し、前の干潟では人々が潮干狩を楽しんでいる。遠景には規則正しく並ぶ名物の磯馴松が描かれ、さらに、その奥には白帆が見えるのどかな光景である。「跡とむる真砂にもしの数そへてしほの干潟に落るかりかね」



[5] 野島夕照(のじまのせきしょう)

野島は、横浜市金沢区野島町の付近で平潟湾の南側にある。現在では夕照橋と呼ばれる橋があり、野島と六浦を繋いでいるが、この名称は野島夕照からきてると考えられる。本図では、野島にある小山を背景に、網漁業をする漁師が描かれている。特に目を引くのは、画面左にある海面から突き出したような地形である。



[6] 乙鱸帰帆(おつとものきはん)

乙鱸は、現在の海の公園付近が埋め立てられる前の寺前地区の旧海岸線の一帯である。乙鱸という地名は平潟湾の東側にある乙鱸町に使われているが、寺前地区から少し離れている為、昔とは多少場所が違っていると考えられる。図内では、行き交う旅人が描かれているが、海岸近くなので建物の類は見られない。



[7] 称名晩鐘(しょうみょうのばんしょう)

題名にある称名とは1258年(正嘉2年)に創建された称名寺のことである。称名晩鐘は、称名寺の周辺に響く鐘の音のことであり、具体的な気象条件などではないが、夕時を知らせる鐘の音色に情景を感じるといった詩的な題材である。本図では、海側から称名寺の付近を眺めており、手前には小舟が描かれている。



[8] 小泉夜雨(こずみのやう)

小泉は、横浜市金沢区釜利谷にある手子神社の東側を中心とした場所で、現在では区画整理などで当時の風景は失われている。本図では、右手に斜面が見え、左手に海が望めるが、平潟湾などの海岸までは数kmの距離があり、名称の地と作図された地では誤差があると考えられる。